

## 海外研修 3 日目

3 月 11 日 曇り時折雨（オーストラリアでは日常的にシャワーが降りすぐに止む独特の天候）

昨日ブリスベンに到着し、どのように初日は過ごしたのか？そして何を食べ、どのような話をしたのか？ホストファミリーとの交流はどうだったのか？とても気になる中、St.John's Anglican College へ先生方と向かいました。

教員滞在先からは約 20 分の距離も朝の渋滞に遭遇しました。一部の交通区間が渋滞するようですが、心配をよそに 6:55 には学校に到着しました。この地域には、現地法人の ASAHI ビールの工場もあり、日本文化の浸透をも感じる事ができる場所です。現地コーディネーターの Mia さんとも予定通り、学校でミートし、1 日のスケジュールを再確認することから、引率者の仕事は始まります。本日はホストファミリーの仕事の関係で、2 名の生徒様が、7:00 に来る為、早めにスタンバイしました。しかし、ホストのスケジュールが変更になった為、45 分遅れると連絡がありました。こういった変更は日常茶飯事です。集合時間 8:15 に対し、本日 1 番目に登校してきた生徒様は、7:46 と早めですが、ホストファミリーに送られてやって来ました。オーストラリアでは早くに登校するのは、ごく自然な事で、保護者は一般的に送り迎えを行っています。子供達は保護者のスケジュールに合わせて登校してくる為です。早く登校した生徒たちは、音楽活動やスポーツ活動、演劇活動などを行ったり、図書館にて時間を過ごしたり、ベンチで過ごしたり様々ですが、とてもゆったりとして見えました。現地学校の駐車場には。数多くの家族が子供たちを送ってきます。休日の昨日、到着した時にはガラガラだった駐車場も現地校先生の駐車場でもある為、満車状態の中、多くの学生が乗降する場所です。

この St John's Anglican College は私立の学校の為、制服着用が基本です。男子は白のワイシャツに濃紺と赤のレジメンタル柄のネクタイ、グレーの長ズボンとハイソックス、ツバの広い帽子を被って登校し、女子は白ブラウスに濃紺のショートネクタイ、ロングスカートという感じです。現地校の生徒達は声をかけてきてくれたり、手を振ってくれたり、とてもフレンドリーです。学校に登校した砺波高生もすぐに打ち解けて交流する姿を拝見しました。

そして、多民族国家のオーストラリアでは、色々な人種が学んでいます。アフリカ系、アジア系も沢山学んでおり、日本の他府県からの学生もありとその多様性を実感し、それぞれがとてもリラックスし交流している姿が印象的です。

初日は若干の遅れが生じる事が多いですが、全ての砺波高生が、予定通り 8:30 からのスケジュールに間に合いました。St.John's Anglican College での最初のスケジュール「歓迎式」は、現地校国際部コーディネーター Simar Bialous Mrs と国際部受け入れ教員の Derek Yang Mr から歓迎の挨拶を受けてスタートとなりました。

### 9:10 国際部のお二人によるキャンパス案内

※授業中の為、私語を慎むように言われる

見学は、演劇クラス、ドローンによる地質学の授業風景、美術、コンピュータ IT クラスなどを見学。特に大きなシアターを持っている学校ですが、プライベートスクールならではの資金力を感じました。また、演劇は、自己表現する場。自己表現は人生において非常に大切と考えているオセアニアならではの教育です。カフェテリアエリアでは、授業との合間に利用する事ができ、多くの学生が交流する場所。カンティーンと呼ばれる購買部施設も見学しました。キャンパスの中心である中庭にて団体写真撮影後、とても広い一面芝生のグラウンドにて、学校の規模の大きさも実感しました。グラウンドエリアには来年、長水路のインドアプールもできると紹介してくださいました。とにかく広い校内に砺波高校生は圧倒されてばかり。

また、全面が芝生のグラウンドやバスケットコートが悠々二面取れる事ができる体育館には、驚きの連続と声をあげる生徒様もいらっしゃいました。

9:40 キャンパスツアーを終えた生徒様は皆様、羨ましいという感想を持たれていたようですが、砺波高校の良さも再発見できたという生徒様もいらっしゃいました。見学を終え、先生方は教員室へ国際部の方と移動され、学校について話を伺う機会をいただきました。

#### ◆St.John's Anglican College の概要

1.学校は2パートに別れ、ここから5分の場所に小学校、この学舎には、グレード7-12(13歳から18歳が学んでいる)

2.生徒数 300名

3.教室での人員比 生徒MAX20名に先生1人、教える科目により、10-15名のクラスも存在。学年と先生の考え方により異なる

4.授業時間 科目により異なるが、45-60分。呼び鈴もあり、スタート前に必ず鳴らす

5.一日のスケジュールは、1日を5ピリオドに分けており、主に英語、数学、美術、音楽、PE(体育保健)となる。カトリックスクールの為、週一回チャペルサービスも行っています。全ての生徒様はクリスチャンではなく多宗教となっている。

6.バスケットコート利用は事前申請制の為、砺波高生も予約すれば、利用可能。校内では2タイプの靴(スパイクとスニーカー)のみ使用している

7.放課後のスポーツ活動は特に試合の近い場合は練習を行っているが、概ね朝練習をするのが主流となっています。スポーツ専門の先生が6人もおり、一部は外部からの人もいるというのも特徴。

8.音楽や演劇はこの学校の先生が教えている。

9.先生は人により考え方が違う為、8時から4時迄働き帰宅をする先生がいたり、学習計画により遅くまで残っておられる先生など、まちまちとなっています。3月末はテスト準備のため先生も忙しい時期となり、3月28日の終業に向けて頑張っている

10.オーストラリアの学期は1年を4タームに別れており、1月スタートから3/28、2週間のイースターホリデー後、2タームが4/16から6月までとなります。2週間の休みの後、3ターム目、4ターム目と続いていきます。学生は、アセスメント→宿題→テストの繰り返しですが、卒業後の進路決めの為、10-11グレードで職業体験を通して未来像を考えさせるのも特徴です。

10:50 からモニングティでは、購買部付近にて積極的な交流風景を垣間見ました。オーストラリアの多くの学校では、遠方からやって来る学生や集中力を養う為、ファースターム後にティタイムとして休み時間を取ります。砺波高生も積極的に話しかけていく姿には微笑ましく感じました。

11:20 からはESLの授業

→語学を通じてオーストラリアの地形を学ぶ

→州名、都市名などの位置関係も学ぶ

→都市写真や国旗、アボリジニーの旗について学ぶ

12:30-13:20 ジェスチャーで伝える英語

13:20-14:00 ランチとなりました。

14:00-14:50 靴を椅子に見立てた椅子取りゲームのようなボギヤブラリーは特に盛り上がっていました。また、ハングマンゲームでは、単語当てゲームで非常に盛り上がっていました。

15:15 よりホストお迎えにより帰り始めました。

16:45 2名の生徒をようやく送り出す

追伸

現在、体調不良者はいません。

積極的に会話をされる姿にはとても感動しました。何事にも前向きに考えることのできる砺波高生は、とても輝いて見えました。明日は他校へ出かけますが、明日はどんなパフォーマンスを見せてくれるのかとても楽しみです。

